

経営改善及び連携・活用に関する取組評価
(令和7(2025)年度)

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

経営改善及び連携・活用に関する方針

法人の概要	(1) 法人の事業概要 ・文化芸術の創造及び発信 ・文化芸術活動の支援及び協働 ・文化施設の管理・運営 ・その他公益目的事業の推進に資する事業 (2) 法人の設立目的 市民の文化芸術活動の振興を図り、もって川崎市における文化芸術の創造を促進します。 (3) 法人のミッション ・多様な文化芸術事業の実施(市民の文化芸術活動の振興、川崎市における文化芸術の創造を促進、多様なジャンルの文化芸術事業の推進) ・文化芸術施設の管理運営(市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場を提供、文化芸術の創造と発信、文化芸術活動の支援と協働を推進) ・効率的な事業運営(財団全体の組織力を結集、経営感覚に富んだ効率的な事業運営)			
本市施策 における 法人の役割	誰もが気軽に文化芸術に触れ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができるよう、文化芸術活動を振興し、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めることが必要であり、財団は市とともに文化施策を担う両輪となって、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の効果的な運営を行うとともに、市民の主体的な文化芸術活動を促進するために、文化芸術に係る中間支援の取組を推進することが求められます。 さらに、平成30年には障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が制定されるなど、文化芸術を通じたダイバーシティ(多様性)とソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)を実現することが求められています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市内の文化芸術活動も大きな影響を受けており、社会変容を踏まえた取組や、文化芸術団体等を支援することも求められているところです。 市制100周年を迎える令和6(2024)年を見据え、文化芸術を持続的に振興していくためには、文化芸術の専門組織である財団の役割はますます大きくなるものと思われます。			
	法人の取組と関連する市の計画	市総合計画上関連する政策等	政策 政策4-8 スポーツ・文化芸術を振興する	施策 施策4-8-2 市民の文化芸術活動の振興
		関連する市の分野別計画	川崎市文化芸術振興計画【R1～5】	
現状と課題	(1) 現状 ・文化芸術の振興を目的として設立された川崎市文化財団は、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の管理運営等の公益性の高い事業を展開しています。平成29年度より市の文化芸術施策の中核を担うための財団の機能強化を進め、「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局と機能統合した上で、本市職員を1名派遣するなど組織強化を図るとともに、浮世絵ギャラリーの運営、バラアート推進事業の実施など、新たな文化芸術事業の取組を展開しています。 ・経営面においては、施設使用料収入、入場料収入等を主たる収入源としていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大により施設使用料収入等が大幅な減収となったことから、財団において収支改善の取組を進めています。しかし、施設運営等にかかる固定経費(建物の賃借料、人件費等)が大きな割合を占めることなどから、その取組の効果は限定的です。 (2) 課題 ・本市における文化芸術の振興のために、財団が文化芸術振興に関する専門性やノウハウを蓄積し、魅力的な文化芸術事業のさらなる展開、優秀な人材の確保・育成、中間支援機能の強化に努める必要があります。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、従前の文化芸術事業の効果検証を行いながら、社会変容に対応した文化芸術事業を構築する必要があります。 ・管理運営する文化芸術施設について、稼働率や老朽化等の課題があり、その対応を図りながら、施設の有効活用を図っていく必要があります。 ・自主的な財団運営に向けて、財団の経営基盤の強化が求められています。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、効率的な施設運営等による支出削減を行うとともに、新たな自己収入の確保も求められます。			
取組の方向性	(1) 経営改善項目 ・財団が主催する文化芸術事業について、参加者数の増加、効率的な経費執行を図り、収益性を高めるとともに、新たな自己収入の確保に努めます。 ・管理運営する文化芸術施設について、施設の有効活用の見地から稼働率の向上に向けた取組を進め、収益性を高めます。 ・自己収入割合を向上させるとともに、効率的な施設運営等による支出の削減をすす、財団経営の健全化を進めます。 (2) 連携・活用項目 ・財団において、より魅力のある文化芸術事業の企画・実施、施設の管理運営を適正かつ効果的に行うとともに、広報、相談、ネットワーク構築など中間支援の取組を強化して、誰もが文化芸術に親しむことができる環境の整備を行います。市は、財団と密接に連携し、事業効果の振り返りと適切な支援を行いながら、人材育成などの財団の自主的な取組を促していきます。 ・平成30年度より本市職員(係長級)を財団に派遣していますが、財団の人材育成等の取組を進め、中間支援のための組織・事業体制を整備するために、市が財団の組織・事業に関与していくことが必要です。			

本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

4カ年計画の目標
(施策推進に向けた取組) ○社会変容を踏まえた多様な文化芸術事業の実施、運営施設の利用促進、文化芸術に係る中間支援の取組を推進し、文化芸術の一層の振興を推進します。 (経営健全化に向けた取組) ○自己収入を増加させるとともに、効率的な施設運営等による支出の効率化をすすめることで収益性の強化及び自立性の強化を図り、財団経営の健全化を進めます。 (業務組織に関する取組) ○川崎市の文化芸術振興に寄与する専門組織として、研修等を通じた人材育成を行うなど、職員の専門性の向上を図り、財団の組織強化を推進します。

取組№	事業名	指標	現状値 (令和5 (2021)年度)	目標値 (令和7 (2025)年度)	実績値 (令和7 (2025)年度)	単位	達成度 (※1)	本市による評価 ・達成状況 (※2) ・費用対効果 (※3)	今後の取組の方向 性 (※4)
①	財団本部事業	財団所管施設の稼働率	44.5	54.0	47.0	%	b	C	II
		財団所管施設における財団主催事業の参加者数	3,553	6,000	5,876	人	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	431,373 (534,981)	427,040 (564,123)	413,873 (574,047)	千円	1)	
②	指定管理事業	指定管理施設の稼働率	62.4	71.0	69.7	%	b	C	II
		指定管理施設における主催事業の参加者数	112,627	164,000	129,890	人	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	970,176 (1,383,444)	981,117 (1,607,722)	862,623 (1,543,425)	千円	1)	
③	文化芸術に係る中間支援	文化芸術に係る相談件数	97	140	100	件	b	C	II
		WEBサイトに広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数	1,099	2,300	2,061	件	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出 (直接事業費)	27,868 (28,048)	6,776 (6,776)	5,629 (5,929)	千円	1)	

取組№	項目名	指標	現状値 (令和5 (2021)年度)	目標値 (令和7 (2025)年度)	実績値 (令和7 (2025)年度)	単位	達成度	本市による 評価 ・達成状況	今後の取組の方向 性
①	収益性の強化	主要な経常収益(市財政支出を除く)	466,267	664,000	822,706	千円	a	A	I
②	自立性の確保	経常費用のうち市財政支出の負担割合	73.1	63.6	60.3	%	a	B	I
		一般正味財産額	465,770	502,767	482,344	千円	b		

取組№	項目名	指標	現状値 (令和3 (2021)年度)	目標値 (令和7 (2025)年度)	実績値 (令和7 (2025)年度)	単位	達成度	本市による 評価 ・達成状況	今後の取組の方向 性
①	職員の専門性の向上	研修への参加回数	20	28	57	回	a	A	I

(※4)【Ⅰ.現状のまま取組を継続、Ⅱ.目標の見直し又は取組の改善を行い取組を継続、Ⅲ.状況の変化により取組を中止】



上記の取組を推進することにより、今後も本市の文化芸術振興の施策を実現する協働のパートナーとして、安定的な運営の確保に向け取り組んでいくことを期待します。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

1. 本市施策推進に向けた事業取組①(令和7(2025)年度)

事業名	財団本部事業
計 画 (Plan)	
現状	財団は、川崎能楽堂等の文化芸術施設を運営し、文化芸術振興に係る多様な主催事業を実施しています。公益事業として収支の均衡をとることが難しい状況にあるところ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って利用キャンセルが多く発生するなど、施設運営や事業実施に大きな影響を受けているところではありますが、これらの事業は市民が文化芸術に触れるきっかけとなるものであり、事業実施方法の転換も視野にいれながら、その機会を増やしていく必要があります。
行動計画	様々な媒体を活用した施設広報、社会受容を踏まえた多用途での施設利用、施設相互の連携、施設の利便性の向上等に向けた取組を進め、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、地域の文化資源やIT技術を活用した多様な文化芸術事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。
具体的な取組内容	【指標1関連】 能楽堂では広報動画の活用や他分野での施設利用の促進を図るとともに、近隣小学校1～2校を対象に能・狂言体験ワークショップを開催し、能楽堂への理解を深め、若年層の興味・関心を高める取組を行います。また、近隣自治体の能楽堂の休館に伴う新規利用者の拡大を図るため、広報の強化を図るとともに、該当の事務局と連携します。プラザソルでは、チラシやポスター、広報誌、SNSの活用により、当施設の地域に根差した文化・芸術活動の取組の紹介と振興を図り、利用者の増加に繋がります。また、スタッフが他の施設・劇場等に出向き、利用団体代表者等へ当ホール利用の利点を直接伝えるなどの広報・営業活動を行っています。トウェンティワンホールでは、多目的ホールの月利用制限の緩和と施設利用料の特別割引(練習利用)を引き続き行っています。アートガーデンかわさきでは、SNS等で空き室情報の案内を行うとともに令和6年度に作成した施設利用パンフレットやロゴを活用し、市民の認知度を高め新規利用者の獲得を図ります。 【指標2関連】 能楽堂では、「能楽堂設立40周年」を令和8年に控え、プロジェクトチームを結成し、より良い能楽堂の在り方について検討を進めます。また、「定期能」「狂言全集」「芸能サロン」といった主催事業についても、より魅力あるプログラム編成に努めます。「定期能」については、今年度から初めて年間3公演を通したテーマ設定を行うとともに、事前講座を能楽堂以外の場所で開催するなど、更なる拡充を図ります。プラザソルが毎月1回開催している「ラゾーナ寄席」については、従来からのチラシやホームページ等での広報、PR動画の配信の他、他の施設の広報掲示コーナーなども積極的に活用させてもらい、市民をはじめとする様々な世代の人たちが日本の伝統芸能の素晴らしさを知り、気軽に楽しんでいたいただける環境づくりを行います。アートガーデンかわさきでは、出展者募集の案内だけでなく、職員による展示の紹介を含めたオリジナルチラシを作成し、新規来場者の増加を図ります。浮世絵ギャラリーでは、引き続き企画展ごとのプレスリリースやポスターの掲示、HPでのギャラリー(施設)の紹介を行います。また、川崎駅周辺の宿泊施設へのチラシ配布やレブリカ展示の協力依頼等による外国人宿泊客への周知、アウトリーチ事業を継続して実施するなど、さらなる認知度の向上に取り組めます。

実施結果 (Do)

本市施策推進に向けた
活動実績

【指標1関連】

能楽堂では広報動画の活用や他分野での施設利用の促進を図るとともに、近隣小・中学校1～2校を対象に能・狂言体験ワークショップを開催し、能楽堂への理解を深め、若年層の興味・関心を高める取組を行いました。また、近隣自治体の能楽堂の休館に伴う新規利用者の拡大と広報の強化を図るため、休館する能楽堂の管理事務局との連携を強化しました。

プラザソルでは、チラシ・ポスター、広報誌、及びホームページやSNSの活用により、当施設の地域に根差した文化・芸術活動の取組に関する、一層の紹介と振興を行いました。また、当施設までの道順をSNS上に複数の写真と平易な説明文で紹介することで、初めての来場者でもスマートフォン画面で確認をしながら来られる環境を整えるなどの利便性を向上させ、利用者の増加に繋げる取組を行いました。このほか、スタッフが他の施設・劇場での請負業務の実施時や観劇等の際に、利用団体の代表者等へ当施設の設備内容や駅直結の利便性の良さを直接伝えるなど、積極的な広報・営業活動を行いました。

トウェンティワンホールでは、多目的ホールの月利用制限の緩和と施設利用料の特別割引(練習利用)を引き続き行いました。

アートガーデンかわさきでは、HP・SNS等で空き室情報を案内するとともに、令和6年度作成した施設利用パンフレットやロゴを活用した館内掲示や北口通路の誘導表示板を設置し、市民の認知度向上と新規利用者の獲得を図りました。

【指標2関連】

能楽堂では、「能楽堂設立40周年」を控え、プロジェクトチームを結成し、より良い能楽堂の在り方について検討を進めてきました。また、「定期能」「狂言全集」「芸能サロン」といった主催事業についても、お客様のアンケートを参考にして、より魅力あるプログラム編成に努めてきました。「定期能」については、今年度から初めて年間3公演を通したテーマ設定を行うとともに、能楽師等の協力を得て、事前講座を拡充させました。

プラザソルでは、主催事業として毎月1回開催している「ラゾーナ寄席」については、チラシやホームページ等での広報、PR動画の配信のほか、他の施設と相互に協力し、それぞれの広報掲示コーナーなども積極的に活用させてもらうなどの取組を行いました。また、今回初めての取組として、地元金融機関が顧客サービスとして実施した招待事業を当施設がタイアップして、1回当たり40人分の招待チケットを連続5回の計200人分について買取りを実施してもらい、集客・収入の増加に結び付けることが出来ました。これらにより、より多くの市民をはじめとする様々な世代の人たちに日本の伝統芸能の素晴らしさを知ってもらい、気軽に楽しんでいたいただける環境づくりを推進することが出来ました。

アートガーデンかわさきでは、展示会の歴史や前回の来場者の声などを取り入れた職員によるオリジナルチラシを作成し、新規来場者の増加を図りました。

浮世絵ギャラリーでは4月から7月にかけて、昨年のNHK大河ドラマで話題となった篤屋重三郎や喜多川歌麿にスポットを当てた企画展を開催し、これまで浮世絵に接したことのない層にも新たに足を運んでいただくなど時機をとらえた展開を実施しました。また、民間事業者との連携により浮世絵木版画の摺り体験を開催したほか、東海道かわさき宿交流館をはじめ、地域で活動する団体等と連携したスタンプラリーなどのイベントの開催、アウトリーチ事業として川崎信用金庫やホテルメトロポリタン等で「複製版画」を展示し浮世絵ギャラリーの広報を行うなど、集客力の向上を図るとともに多くの市民等に浮世絵に触れる機会を提供する取組を実施しました。さらに、富士見中学校ほか4校と連携し職業体験等を実施し、若い世代への周知を図ることができました。

〔各施設の稼働率〕						〔各施設の主催事業参加者数〕					
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7目標値		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7目標値
川崎能楽堂	33.0	33.3	40.2	38.9		川崎能楽堂	1,768	1,959	2,476	2,368	
ラゾーナ川崎プラザソル	80.4	81.7	73.5	79.1		ラゾーナ川崎プラザソル	871	1,002	966	1,384	
新百合トウェンティワンホール	48.5	41.5	51.9	44.0		新百合トウェンティワンホール	389	427	474	454	
アートガーデンかわさき	60.1	68.0	74.0	72.4		アートガーデンかわさき	1,111	1,149	1,858	1,382	
川崎浮世絵ギャラリー(年間バスポート)						川崎浮世絵ギャラリー(年間バスポート)	256	324	341	268	
計	50.1	44.9	53.1	47.0	54.0	計	4,395	4,861	6,115	5,876	6,000

評価（Check）									
本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	財団所管施設の稼働率		目標値		42.0	46.0	50.0	54.0	%
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホール（多目的ホール等）、アートガーデンかわさきの合計の区分利用率	実績値	44.5	50.1	44.9	53.1	47.0	
2	財団所管施設における財団主催事業の参加者数		目標値		3,600	4,400	5,200	6,000	人
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホール、アートガーデンかわさき（浮世絵ギャラリー含む）における主催事業の参加者数	実績値	3,553	4,395	4,861	6,115	5,876	
指標1 に対する達成度			b	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
指標2 に対する達成度			b						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
指標1については、現状値を上回りましたが目標値には至りませんでした。特にトウェンティワンホールでは、市の主催事業への通年貸し出しが終了したことなどから稼働率が大幅に下がることとなり、財団所管施設全体の稼働率にも影響が出ました。 また、指標2についても現状値は上回りましたが、目標値にはわずかに届きませんでした。各施設においては参加者数の増加に向けた様々な取組を進めており、令和3年度から毎年度順調に増加してきましたが、令和6年度は川崎市が市制100周年を迎えた年であり、当財団でも市の100周年事業と連携した取組や広報を行ったことから参加者数が特に増加した年であったと考えています。今後も事業の見直しや経費の効率的な執行等に取り組むとともに、新規利用者の獲得を目指し、魅力的な企画や演目の実施、広報の工夫等により集客効果を高め、収益の向上に努めます。									
本市 による評価	達成状況		区分		区分選択の理由				
			A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った		C 改善に向けた取組を進めたが、「財団所管施設の稼働率」「財団所管施設における財団主催事業の参加者数」の実績値がいずれも目標を達成することができなかった。 一方、「財団所管施設における財団主催事業の参加者数」の実績値は目標値をわずかに下回ったものの、令和5年度比では上昇しており、市民の文化活動の場の提供及び文化芸術に触れる機会の創出ができた。				
行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		402,939 (539,522)	369,189 (506,272)	460,144 (596,727)	427,040 (564,123)	千円
	説明	本市財政支出（直接事業費）	実績値	431,373 (534,981)	408,052 (555,711)	376,673 (542,103)	425,938 (568,074)	413,873 (574,047)	
行政サービスコスト に対する達成度			1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上					
法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)									
物価高騰の煽りを受け厳しい状況ではありましたが、プラザソルでの利用料金の値上げ、浮世絵ギャラリーでの認知度向上に向けた市内巡回展示、民間企業等との連携による集客等、各施設さまざまな取組を進めるとともに、併せて経費節減に努めた結果、行政サービスコストは目標値を達成することができました。今後も引き続き経費の節減に努めるとともに、施設使用料収入等の増加を図るため、認知度向上等の取組を進めていきます。									
本市 による評価	費用対効果 （「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価）		区分		区分選択の理由				
			(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である		(2) 行政サービスコストが目標値の範囲内であるとともに、ホームページやSNS、情報誌などへの掲載など、様々な媒体での積極的な広報を進めたことにより目標を達成することができたため。				
改善（Action）									
実施結果（Do） や評価（Check） を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分			方向性の具体的内容					
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止			Ⅱ 能楽堂の稼働率については、横浜能楽堂の長期休館（令和6年1月～令和8年6月）が終了しますので、低下が想定されますが、新規利用者の獲得に向け、積極的に広報していきます。また、プラザソルや新百合トウェンティワンホールについても引き続き「直近割」や「特別割引」の更なる周知など、稼働率の向上に向けた取組を進めます。また浮世絵ギャラリーについても認知度向上に向けたアウトリーチ事業の展開、近隣民間施設と連携したインバウンドの呼び込み、魅力的な企画展のタイムリーな開催等、浮世絵を活用した文化振興を進めながら自己収入の確保に努めます。					

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

本市施策推進に向けた事業取組②(令和7(2025)年度)

事業名	指定管理事業
-----	--------

計 画 (Plan)

現状	市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場として、指定管理施設(ミュージア川崎シンフォニーホール等)の運営を行っています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って利用キャンセルが多く発生するなど、施設運営や事業実施に大きな影響を受けているところではありますが、事業実施方法の転換も視野に入れながら、市民の文化芸術活動の振興のため、施設稼働率の向上、主催事業の参加者の増加を図る必要があります。 【各施設の指定管理期間】 ミュージア川崎シンフォニーホール：R2～R11 川崎市アートセンター：R4～R8 東海道かわさき宿交流館：R5～R9
行動計画	様々な媒体を活用した各施設の広報、社会変容を踏まえた多用途での施設利用、施設の利便性の向上等に向けた取組を進め、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、IT技術等も活用した多様な主催事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。 なお、各施設の指定管理の継続受託を見据えていますが、本計画期間中に指定管理者の変更があった場合は各指標の見直しを行います。
具体的な取組内容	【指標1関連】 ミュージア川崎シンフォニーホールでは、引き続き高い水準を維持するため、組織を改正(広報営業課の新設)し、広報の強化を図ります。アートセンターでは、令和7年2月に新たに配置した広報担当を中心に、X、令和7年3月に開設したInstagram、Facebookにより、各アカウントのユーザーの特性に合わせ、効果的な情報発信に取り組みます。また、小劇場においては、利用がない場合には、映画を上映するなど、稼働率を高めるとともに施設の有効活用につなげていきます。さらに、これまで活用されていなかった館前の公開空地でイベントを開催し、新百合ヶ丘駅北側の賑わいを創出し知名度を向上させることにより、減少傾向にある来館者数の増加を図ります。東海道かわさき宿交流館では、引き続き、ホームページや広報紙、SNS等を通じて施設広報を積極的に行うとともに、利用しやすい施設運営を行います。 【指標2関連】 ミュージア川崎シンフォニーホールでは、参加者数はコロナ禍以前と比較しても大幅な増加となっていますが、令和7年度についてもこの水準を維持するため、広報事業を強化するとともにフェスタのキャラクターの刷新、オリジナルグッズの販売、魅力ある公演の開催などの取組を行います。アートセンターでは、これまで少なかった若者の来館を促すため、令和7年4月から映画の学生料金を値下げしたことを契機に、令和7年5月に配置した地域連携担当を中心に近隣の大学との連携を図り、若者を含め多様な方が楽しめるような作品の上映、事業の実施に取り組みます。東海道かわさき宿交流館では、お客様のニーズに合った事業を企画するとともに、引き続き、ホームページや広報紙、SNS等を通じて主催事業の広報を積極的に行います。 【各施設の指定管理期間】 ミュージア川崎シンフォニーホール：R2～R11 川崎市アートセンター：R4～R8 東海道かわさき宿交流館：R5～R9

実施結果 (Do)

【指標1関連】

ミュージア川崎シンフォニーホールでは、広報営業課を事業企画課から分離する形で改めて設置（これに伴う人員の増減はありません）し、「友の会制度」や「スポンサー制度」等の見直しを行うなど、広報事業の強化とともに効率化を進めることで、経費（広告宣伝費）の削減を図りました。

アートセンターにおいては、Instagramのフォロワー数が目標の1,000件を超え、これまで届かなかった層へのアプローチを強めて来館につなげました。また、小劇場の稼働率の向上と増収を図るため、2ヶ月前までに小劇場の予約が入っていない場合、小劇場シネマと題してニーズが高かった作品の上映や地元ゆかりの監督や作品を上映したことで、当初予算の水準まで収益を上げることができました。さらに、アートセンター前の公開空地を活用したイベントを、地元の商店会や町内会自治会、文化活動団体と連携して実施することにより、賑わいの創出とアートセンターの知名度向上につなげることができました。

東海道かわさき宿交流館では、稼働率を上げるため、常に利用者サービスの向上を心がけ、接遇や環境整備、施設利用ニーズへの対応、インバウンド対応等に努め、また、積極的に他機関・団体が実施している事業とも連携、協力が図れるよう運営しました。広報では、これまでのチラシ配布やホームページによる情報発信に加え、今年度からInstagramによる情報発信を開始し、頻繁に施設や事業の紹介を発信しました。さらにアゼリア地下街での事業紹介や北テラス等へのポスター掲示、アートセンターでの出張事業などを通して、認知度の向上に努めました。

【指標2関連】

ミュージア川崎シンフォニーホールでは、令和7年度も魅力ある公演の開催やフェスタサマーミュージアの活性化等に取り組み、合わせて、広報事業の工夫等を行うことにより、入場者数は過去最大水準を維持することができました。

アートセンターでは、学生料金を1,000円に値下げするとともに、神奈川県下のミニシアターと連携した学生料金を半額にするイベントを実施したほか、日本映画大学が選定した作品を1週間上映するなどした結果、昨年度の学生の来館者数を10月には上回り、昨年度の2倍に迫る伸びとなりました。また、学生の視点を施策や作品選定に活かすために、近隣の大学生の参加による「学生座談会」を開催し、そこから出たアイデアを取り入れて新たな事業につなげました。特に、専修大学松本ゼミと連携した施策では、新百合ヶ丘の商業施設、小田急電鉄の協力を得て、スタンプラリーを実施し、これまで、アートセンターに来館したことのない方、ファミリー層など、約4,000人が参加し、知名度の向上につなげることができました。

東海道かわさき宿交流館では、利用者からのアンケートや市民からのご意見を参考に主催事業を企画してきました。主催事業としては、通年で人気を博している「江戸時代の粋に遊ぶ」(3回)、「街道講演会」(2回)、「落語」(6回)、「講談」(3回)を開催してきました。令和7年度の企画展としては、「懐かしき昭和の店先」(3/4～5/6)、「川崎が生んだ詩人 佐藤惣之助」(5/13～6/29)、「川崎観光写真コンクール入賞作品展」(7/20～9/28)、市民ミュージアムとの共催企画展「ハマ川崎-陸と海の狭間をたどる」(10/10～12/11)、川崎ジュニア文化賞受賞作品展(12/17～1/14)、川崎郷土・市民劇「あるくた」関連事業「坂本九写真展-九ちゃん笑顔のふると」(2/7～3/29)を行いました。また、町内会や商店街などと連携して「川崎宿場まつり」(10/5)、「川崎宿スタンプラリー」(11/1)を開催しました。

本市施策推進に向けた活動実績

各施設の稼働率

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7目標値
ミュージア川崎シンフォニーホール	77.8	81.1	81.5	81.2	
川崎市アートセンター	49.6	50.5	49.7	51.9	
東海道かわさき宿交流館	51.8	51.4	56.8	60.1	
計	65.2	68.5	68.4	69.7	71.0

各施設の実施事業参加者数

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7目標値
ミュージア川崎シンフォニーホール	71,800	75,343	83,605	76,365	
川崎市アートセンター	60,437	50,767	49,966	52,379	
東海道かわさき宿交流館	1,650	1,645	1,457	1,146	
計	133,887	127,755	135,028	129,890	164,000

評価（Check）									
本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	指定管理施設の稼働率		目標値		59.0	63.0	67.0	71.0	%
	説明	ミュージア川崎シンフォニーホール(音楽ホール等)、川崎市アートセンター(小劇場、映像館)、東海道かわさき宿交旅館(集会室等)の合計の区分利用率	実績値	62.4	65.2	68.5	68.4	69.7	
2	指定管理施設における主催事業の参加者数		目標値		104,000	124,000	144,000	164,000	人
	説明	ミュージア川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンター、東海道かわさき宿交旅館における主催事業の参加者数	実績値	112,627	133,887	127,755	135,028	129,890	
指標1 に対する達成度			b	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
指標2 に対する達成度			b						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
指標1につきましては各施設において、様々な取組を進めてきた結果、前年の稼働率を上回りましたが、目標値にはわずかに届きませんでした。 指標2につきましても現状値は超えたものの、目標値には届きませんでした。									
本市による評価	達成状況		区分		区分選択の理由				
			A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	C	改善に向けた取組を進めたが、「指定管理施設の稼働率」、「指定管理施設における主催事業の参加者数」の実績値が目標を達成することができなかった。 一方、「稼働率」の実績値は目標値をわずかに下回ったものの、令和6年度比では上昇しており、市民の文化活動の場の提供及び文化芸術に触れる機会の創出ができたため。				
行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		960,863 (1,574,777)	981,917 (1,599,224)	981,117 (1,625,332)	981,117 (1,607,722)	千円
	説明	本市財政支出(直接事業費)	実績値	970,176 (1,383,444)	990,821 (1,544,348)	991,873 (1,718,441)	1,000,834 (1,753,963)	862,623 (1,543,425)	
行政サービスコスト に対する達成度			1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上					
法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)									
各施設において計画(plan)で掲げた取組を的確かつ着実に実施した結果、令和7年度については実績値が目標値の範囲内となり、目標を達成することができました。									
本市による評価	費用対効果 (「達成状況」と「行政サービスコスト」に対する達成度)等を踏まえ評価)		区分		区分選択の理由				
			(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2)	行政サービスコストが目標値の範囲内であるとともに、ホームページやSNS、情報誌などへの掲載など、様々な媒体での積極的な広報を進めたことにより目標を達成することができたため。				
改善（Action）									
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分			方向性の具体的内容					
	Ⅱ			指定管理施設の稼働率、主催事業の参加者数、ともに目標値は達成できなかったものの、実績値が現状値以上となりました。引き続き、現行の取組を推進するとともに、ホームページや広報紙、SNS等を通じて施設の広報を積極的に行い、更なる稼働率の向上と参加者数の増加に取り組みます。また、来場者・利用者のニーズを的確に捉え、入場料収益や施設利用料収益、友の会収益、物品販売収益などの自己収入の確保に繋げるとともに国庫補助金等の獲得に取り組みます。					

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

本市施策推進に向けた事業取組③(令和7(2025)年度)	
事業名	文化芸術に係る中間支援
計 画 (Plan)	
現状	財団は、市が現在、検討を進めている「アート・フォー・オール」の考え方も踏まえ、広報、相談、ネットワークの構築、ボランティア等の人材育成など、文化芸術に係る中間支援の役割を担うことが期待されています。新型コロナウイルス感染症の影響で文化芸術活動が様々な制限を受けるなか、その中間支援の役割の重要性は増えています。 財団は、これまで音楽やパラアートを重点分野として、その中間支援の実績を蓄積してきましたが、そのノウハウを文化芸術全般へ広げていくことが求められます。
行動計画	・文化芸術に関する相談に幅広く対応できるよう、職員のスキルアップを図るとともに、相談窓口の広報周知の取組を行います。 ・財団が管理する「『音楽のまち・かわさき』推進協議会」、「ばらあーとねっと」のWEBサイトを周知するとともに、社会変容により文化芸術活動が多様化していることも踏まえ、様々な媒体に多くのイベント情報を掲載し、文化芸術活動の広報を通じた支援を行います。 ・文化芸術公演の主催者に対する会場使用料等の助成など、新型コロナウイルス感染症の文化芸術活動への影響を踏まえた中間支援の取組を行います。ただし、令和5年度以降の取組については、新型コロナウイルス感染症の動向も踏まえる必要があることから、事業内容に変更があった場合には、事業別の行政サービスコストの目標値の見直しを行う場合があります。
具体的な取組内容	【指標1関連】 ○文化芸術団体・個人向けの相談対応 音楽のまちづくり事業では、活動者ならびに支援者、鑑賞者、一般市民などの需要と供給をコーディネートし、情報面で活動をサポートするため、ウェブサイトや紙媒体による関連のイベント、団体、補助金等の情報提供を通じて、事務局自体の活動を周知し、相談の受け皿としての存在周知につなげています。パラアートにおいては、公募型事業委託への提案申請を通じて、事前の相談や助言を行う機会を設けるなど、パラアートに取り組む事業者・団体に対する支援を行います。また、様々な相談に対応するため職員の研修参加機会を増やし、スキルアップに努めます。 ○ネットワーク形成のための交流・連携イベントの定期開催 音楽のまちづくり事業では「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心とした産官学連携による協働をより一層進めます。運営委員会を年3回開催し、各セクター間の情報共有、意見交換を行います。また、市内で音楽活動を行う個人、団体、事業者等のネットワークを促進するため、交流会を開催し、新たな事業創出やコラボレーションが生まれやすい機運を醸成します。パラアートについては、パラアートに取り組む個人や団体、行政職員などによる事例発表と交流の場としてパラアートミーティングを開催します。 【指標2関連】 ○広報による活動支援 音楽のまちづくり事業では、市内で行われる事業に対して後援を行い、当財団の広報媒体による情報発信でイベント参加者を増やすための広報を支援します。また、「音楽のまち・かわさき」ではテレビ神奈川、かわさきFMといったマスメディアを利用し、市内で活躍する音楽関係者、学校、企業など音楽に取り組む人々のストーリーを紹介し、活動を支援します。また周年事業を通じておんまちの取組を知ってもらう機会とし、音楽活動を行う市民へのPR支援に対する認知拡大に取り組みます。パラアートについては、職員が情報収集することに加え、「パラアートミーティング」の開催や連携イベントにより、ネットワークを広げることで、広報支援を行う文化芸術イベントの件数を増やします。 【その他】 ○地域連携 音楽のまちづくり事業では、川崎ゆかりのアーティストを中心にフリーライブをコーディネートし、商業施設との連携で実施します。また、かわさきジャズやミュージア川崎シンフォニーホール、かわさきバラムーブメントなどの事業に協力し、ワークショップ出展などを行います。パラアートにおいては、パラアートの魅力を感じてもらうため絵画展「Colorsかわさき2025展」を開催します。また、地域のアーティストを紹介するワークショップ(3日間)や課題解決・つながりづくりを目指すパラアートミーティング(2日)、パラアートを他団体の主催イベントに取り入れてもらう連携イベントを実施します。さらに、市が取り組むアートコミュニケーター育成講座受講生との連携企画も継続します。

実施結果 (Do)	
本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 ○文化芸術団体・個人向けの相談対応 「音楽のまち・かわさき」では、寄せられた相談の中から市内事業者の音楽イベント実施に向けて協力したり、高校生の探究学習への協力など、専門的な知見からの伴走支援を行いました。パラアートにおいては、公募型事業委託への提案申請を通じて事前の相談や助言を行う機会を設けるなど、パラアートに取り組む事業者・団体に対する支援を行いました。新たに対面形式での公募型事業委託報告会を開催し、事業者・団体同士でも学び合い、相談し合える場を設けました。また、様々な相談に対応するため職員の研修参加機会を増やし、スキルアップに努めました。 ○ネットワーク形成のための交流・連携イベントの定期開催 「音楽のまち・かわさき」では、7月に初となるビジネス交流会を開催し、市内の音楽や文化、エンタメに関わる多くの事業者に参加をいただきました。また、パラアートでは、団体等による事例発表と交流の場としてパラアートミーティングを開催しました。さらに神奈川県障害者芸術文化活動支援センターと連携強化を図り、パラアートに関する取組や相談状況などの情報共有を図りました。 【指標2関連】 ○広報による活動支援 「音楽のまち・かわさき」では、新たな取組として今年度試行実施がはじまった「川崎駅東口ストリートミュージックバス」の登録およびマナー啓発の広報に注力しました。また、市民への効率的な情報提供を実現するため令和8年度以降に①カワサキミュージックブチマガジンのリニューアル及び②ホームページ掲載のイベント情報のAIによる情報収集システム導入の検討を行いました。いずれも、令和8年度の実施を目指しています。パラアートでは、職員が情報収集することに加え、「パラアートミーティング」の開催や連携イベントにより、ネットワークを広げることで情報を収集しました。また、SNSで定期的な情報発信を行うことで、フォロワー数を着実に伸ばすことができました。 【その他】 ○地域連携 音楽のまちづくり事業では、川崎ゆかりのアーティストを中心にフリーライブ(溝の口、鷺沼駅前、ラゾーナ)をコーディネートし、商業施設との連携で実施しました。また、かわさきジャズ、ミュージア川崎シンフォニーホール、かわさきバラムーブメントなどの事業に協力し、ワークショップ出展などを行いました。 パラアートでは、パラアートの魅力を感じてもらうため絵画展「Colors かわさき 2025展」を開催しました。今年度は新たに美術系学生ボランティアや地域のデザイナー、アーティストに関わってもらい、運営体制の充実を図りました。巡回展は新百合ヶ丘駅近くの商業施設に加え、新たに川崎駅直結の商業施設、武蔵小杉駅近くの民間ギャラリーでも実施しました。初の試みとして、家電量販店のテレビコーナーにてデジタルパラアート展も行いました。市が主催するアートを介してコミュニケーションを創出するアートコミュニティ形成プログラムとの連携では「対話型鑑賞」など3企画を実施しました。さらに、地域のアーティストを紹介するワークショップ(2日間)や課題解決・つながりづくりを目指すパラアートミーティング(2日)、パラアートを他団体(例:市民団体、プロボノ倶楽部、商業施設、コミュニティカフェ等)の主催イベントに取り入れてもらう連携イベントを実施しました。パラアート作品の常設展示は、川崎市生涯学習プラザ及び川崎市青少年の家の協力のもと、障害福祉施設延べ8施設の作品を展示しました。

評価（Check）									
本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	文化芸術に係る相談件数		目標値		110	120	130	140	件
	説明	財団（「音楽のまち・かわさき」推進協議会を含む）において対応した、文化芸術に関する相談件数	実績値	97	119	124	133	100	
2	WEBサイトにて広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数		目標値		1,550	1,800	2,050	2,300	件
	説明	財団のWEBサイト（『「音楽のまち・かわさき」推進協議会」、「ばらあーとねっと」等）に掲載した市内での文化芸術イベントの件数	実績値	1,099	1,617	1,938	2,079	2,061	
指標1 に対する達成度			b	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
指標2 に対する達成度			b						
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
指標1につきましては、目標値には届きませんでしたが、事業者の音楽イベント実施に向けて協力したり、高校生の探究学習への協力など、専門的な知見からの伴走支援を行いました。また、パラアートにつきましては、新たに対面形式の事業報告会を開催し、事業者・団体同士でも学び合い、相談し合える場を設けるとともに、ネットワーク形成のための交流・連携イベントを定期的に開催するなど、中間支援としての取組を進めることができました。 相談件数については、実際の交流やつながりに繋がらないケースもあることから、具体的な相談のみを集計したことにより令和6年度から減少しました。また、令和8年度から交流会等の実際の開催件数を新たな指標として設定し、取組結果を確認していきます。 指標2につきましても、目標値には届きませんでしたが、「音楽のまち・かわさき」では、新たな取組として令和7年度に試行実施がはじまった「川崎駅東口ストリートミュージックパス」の登録及びマナー啓発の広報に注力しました。誰もが文化芸術に触れ、参加できる環境「アート・フォー・オール」の実現に向けては、そのプラットフォームの一翼を担う交流やつながりの場、地域のネットワークの構築等が必要であることから、令和8年度から「交流・つながりの場の創出件数」を指標に設定し、取組結果を確認していきます。									
本市による評価	達成状況		区分		区分選択の理由				
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った		C		「文化芸術に係る相談件数」、「WEBサイトにて広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数」は、いずれも目標値を下回ったが、相談や広報支援を通じてネットワークの構築を図るなどの中間支援により、文化芸術の振興に寄与することができたため。				
行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		30,355 (30,355)	6,776 (6,776)	6,776 (6,776)	6,776 (6,776)	千円
	説明	本市財政支出（直接事業費）	実績値	27,868 (28,048)	27,515 (27,705)	6,301 (6,481)	5,869 (6,169)	5,629 (5,929)	
行政サービスコスト に対する達成度			1)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上					
法人コメント(行政サービスコストに対する達成度について)									
事業別の行政サービスコストについては、目標を達成することができましたが、引き続き経費削減に努めながら効率的な事業執行を行うとともに市民が文化芸術に触れる機会の提供と障がいの有無にかかわらず文化芸術を楽しむことができるよう取り組んでいます。									
本市による評価	費用対効果 （「達成状況」と「行政サービスコスト」に対する達成度）等を踏まえ評価		区分		区分選択の理由				
	(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である		(2)		指標1及び指標2の目標を達成することができなかったが、行政サービスコストが目標値の範囲内であるとともに、パラアートや音楽をはじめとした、市民の文化芸術活動に関する相談への対応や交流・連携イベントの開催、川崎駅東口ストリートミュージックパスの運用などにより、中間支援に取り組むことができたため。				
改善（Action）									
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分			方向性の具体的内容					
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止			Ⅱ 相談件数を中間支援の基準とすることについては、令和8年度以降は目標としないこととします。 イベントの件数は目標値には到達しなかったものの令和6年度並の実績値となりました。 市が目指す誰もが文化芸術に触れ、参加できる環境「アート・フォー・オール」の実現に向け、文化芸術を担う中核組織として、引き続き専門性を活かしながら中間支援の取組を推進します。					

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

2. 経営健全化に向けた取組①(令和7(2025)年度)	
項目名	収益性の強化
計 画 (Plan)	
現状	主要な経常収益(事業収益)から市の委託料・指定管理料を除いた財団の自己収入は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降大きく減少しましたが、財団の経営基盤を強化して、新たな事業展開や優秀な人材の確保等の課題に対応するためには、自己収入を増やしていく必要があります。
行動計画	主催事業の実施による入場料収入や施設利用の促進による施設利用料収入の増加等により、段階的な自己収入の増加を図っていきます。
具体的な取組内容	入場料収益や施設利用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、主催事業の企画の充実やチラシ、SNS、地域メディア等の様々な媒体を活用し施設や主催事業の積極的な広報を行います。プラザソルでは、都内・県内周辺地域の同規模類似施設との比較と今般の物価状況をもとに検討し、本年4月1日以降の利用申請受付分から利用料金を適正かつ競争力のある価格に値上げするとともに、直近割の広報強化や昨年度から実施している施設の連続利用日数の緩和(7日から14日)により、新たな需要を掘り起こすことで利用促進を図るなど、収益性の強化と収益率の改善を行います。また、浮世絵ギャラリーでは、認知度向上のため、引き続きレプリカを活用した巡回展示を実施するとともに、民間企業とも連携し、入館者増に係る取組を進め、入館料収入や物販収入の増加に取り組みます。ミューザ川崎シンフォニーホールでは、広報営業課を改めて設置し広報事業を強化するとともに、友の会事業の見直しやスポンサーの拡大などに取り組んでいきます。アートセンターでは、諸物価の高騰を踏まえ、都内・県内のシネマコンプレックスやミニシアターの料金を勘案して令和7年4月から映画の一般料金等の値上げを行い、収入の確保を図るとともに、これまでの事業に工夫を加え、さらに収益性があり集客力のある事業を行っていきます。

実施結果 (Do)	
経営健全化に向けた活動実績	収益性の向上と経費の適正化を目指し、財団本部及び各施設において主体的に経営改善に向けた取組を推進しました。 プラザソルでは、物価動向や周辺施設との比較を踏まえた利用料金改定に加え、割引制度の周知や連続利用条件の緩和、主催事業の入場券の販路確保等により会場の利用促進と収益性の改善に努めました。 浮世絵ギャラリーでは、レプリカを活用した巡回展示を認知度の低い北部地域をはじめ6カ所で行うとともにミューザ川崎シンフォニーホールとの相互割引やインバウンド客の利用が多い宿泊施設との連携等による来館者の呼び込みに取り組むとともに複製版の販売を開始する等物販収入の確保を進めました。 アートセンターでは、映画部門における料金改定や日本映画大学との連携による新たな配給会社の確保等により、来場者層が拡大し収入増を実現し、劇場部門においても厳しい条件下で当初予算を上回る収益を確保しました。 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、広報営業課を改めて設置し、友の会制度やスポンサー制度の見直しを行うとともに広報事業の見直しを行うことで広告宣伝費の削減に努めました。 東海道かわさき宿交流館では、集会室の稼働率向上に向け、HPやInstagramでの紹介等による広報強化により、施設利用の増加につなげました。

評 価 (Check)									
経営健全化に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	主要な経常収益(市財政支出を除く)		目標値		556,000	592,000	628,000	664,000	千円
	説明	主要な経常収益(事業収益)から市財政支出額(委託料・指定管理料)を除いた額	実績値	466,267	593,167	745,641	785,746	822,706	
指標1 に対する達成度			a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
各施設において計画(plan)で掲げた取組を的確かつ着実に実施した結果、令和7年度においても実績値は目標値を上回り、目標を達成することができました。									

本市 による評価	達成状況	区分		区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	

改 善 (Action)			
実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた 今後の取組の 方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	引き続き、入場料収益や施設使用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、様々な媒体による効率的かつ効果的な広報を実施するとともに、魅力ある事業の実施に努め、来場者・利用者数の増加を目指していきます。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

経営健全化に向けた取組②(令和7(2025)年度)	
項目名	自立性の確保
計 画 (Plan)	
現状	経常費用に対する市財政支出(補助金、指定管理料)の割合は、新型コロナウイルス感染症に係る逸失収入補償金を計上したことなどより、令和2年度以降大きく増加しましたが、自己収入の増加と当該収入に基づく費用の執行に努めて、市からの財政支援依存度を低減し、財団の自立性を確保する必要があります。 一般正味財産額については、新型コロナウイルス感染症等の影響で減収となったため、減少の傾向にありますが、財団経営の安定性、自立性を確保する観点から、一般正味財産の確保に取り組む必要があります。
行動計画	有料事業の実施、協賛金の確保等により事業収入の増加を図るとともに、市に依存しない事業執行に努めることで、市からの財政支援依存度の低減を図っていきます。 収支均衡に向けた取組を推進し、一般正味財産額の確保に取り組みます。
具体的な取組内容	【指標1関連】 入場料収益や施設利用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、主催事業の企画の充実やチラシ、SNS、地域メディア等の様々な媒体を活用し施設や主催事業の積極的な広報を行います。また、プラザソルやアートセンターでは利用料金の改定を行い収入の確保を図るとともに、ミュージア川崎シンフォニーホールでは、広報営業課を新設し広報事業を強化するとともに、友の会事業の見直しやスポンサーの拡大などに取り組んでいきます。さらに、助成金等の活用や協賛金の獲得による自主財源の確保に加え、事業の見直しや購入物品の精査など経費の効率的な執行等に取り組めます。 【指標2関連】 公共事業の収支相償の原則による事業執行、助成金の活用、収益事業は施設管理事業及び物品販売事業による収益の確保、法人会計は近年の人件費や物価高騰を踏まえ、事業の見直しや購入物品の精査などによる経費の効率的な予算執行により、財団全体として収支均衡を図り、一般正味財産の確保に努めます。

実施結果 (Do)	
経営健全化に向けた活動実績	【指標1関連】 事業収益の確保を目指し、プラザソルにおける利用料金の改定や、アートセンターにおける映画の鑑賞料金について一般料金を値上げし学生料金を値下げするなどの料金改定を実施した結果、アートセンターでは収益の増と新たな層(学生)の利用者確保に繋げることができました。 ミュージア川崎シンフォニーホールでは、広報営業課を改めて設置し広報事業を強化するとともに、友の会事業の見直しやスポンサーの拡大などに取り組みました。各施設、主催事業の企画の充実に加え、様々な広報媒体を活用し、効率的かつ効果的な広報を積極的行いました。 【指標2関連】 公共事業の収支相償の原則による事業執行、助成金の活用、収益事業については施設管理事業及び物品販売事業による収益の確保により財団全体として収支均衡が図られるよう、事業の見直しや購入物品の精査等効率的な予算執行を行い、一般正味財産の確保に努めました。一般正味財産額は目標値に届きませんでした。

評 価 (Check)								
経営健全化に関する指標		目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	経常費用のうち市財政支出の負担割合	目標値	73.1	67.0	65.2	65.2	63.6	%
	説明 経常費用に対する市財政支出(補助金、委託料、指定管理料)の割合	実績値		66.6	60.5	61.4	60.3	
2	一般正味財産額	目標値	465,770	347,810	502,767	502,767	502,767	千円
	説明 一般正味財産額	実績値		502,767	457,961	430,894	482,344	

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満	
指標2 に対する達成度	b	※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載	
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)			
指標1については、アートセンターをはじめ各施設において主催事業の企画の充実に努め、また様々な媒体を活用した広報を積極的に実施したことで、事業収益の増加に繋がり、川崎市の財政支出の割合を減らすことができました。一方、指標2については、各施設の取組の結果、昨年度に比べ一般正味財産額は約5,100万円程増えたものの、目標値には達しませんでした。			
本市による評価	達成状況	区分	区分選択の理由
		A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	B 指標1について、各施設ともに稼働率や主催事業参加者数の増加に向けた取組を進め、支出の見直しを進めたことにより、目標値を達成したため。 指標2については、目標額の達成は出来なかったが、人件費や物価高騰等によりR5年度から続いていた一般正味財産の減少から増加に転じることができた。
改善(Action)			
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	今後も適宜事業の見直しを行い、市民ニーズに合った魅力的な企画や演目の実施に努めるとともに、効果的かつ経費節減を意識した効率的な広報により集客効果を高め、事業収益の確保に努めます。また、施設利用料収益の確保を目指し、施設の認知度を向上させるため、近隣民間施設等と連携した取組や様々な媒体を活用した効果的な広報を展開します。

法人名(団体名)	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室
----------	---------------	-----	--------------

3. 業務・組織に関する取組①(令和7(2025)年度)

項目名	職員の専門性の向上
計 画 (Plan)	
現状	文化芸術の専門組織として、職員のスキルアップを図り専門性を向上させることは大きな課題であり、財団では、施設や職域ごとに文化芸術等に関する職員研修を実施しています。
行動計画	施設ごとに実施している研修を合同で実施したり、国等が主催する外部の研修に職員を積極的に派遣するなどし、職員のスキルアップを図るとともに、研修の内容を職員間で共有するなどし、組織としての専門性向上やサービス向上につなげます。
具体的な取組内容	財団職員としての基礎的な研修や文化施設職員としての専門性向上のための研修を計画的に実施し人材育成を図ります。 また、文化庁や全国公立文化施設協会、川崎商工会議所等主催の外部研修に職員を積極的に参加させ、能力向上を図ります。 なお、今年度は財団の新たなステイトメントの策定を受け、各所属から推薦された職員で第二期ワーキンググループを設置し、組織内での共有化や対外的な発信、コンセプトブックの作成などの検討を行っています。

実施結果 (Do)

業務・組織に関する活動実績	財団職員としての基礎的な研修や文化施設職員としての専門性向上のための研修を計画的に実施し人材育成を図りました。 本部においては、新規採用職員に対し、財団の組織や事業計画、収支予算、就業規則さらには令和7年度に策定した財団のステイトメントに関する説明を行うとともに、近隣施設の見学会を実施しました。 また、財団の新たなステイトメントの策定を受け、各所属から推薦された職員で第二期ワーキンググループを設置し、組織内での共有化や対外的な発信、コンセプトブックの作成などの検討を行いました。 各指定管理施設においても職員の専門性向上のため、様々な機会を捉え職員の積極的な参加を促しており、年代別研修などの内部研修を適切に行うとともに、文化庁や全国公立文化施設協会、川崎商工会議所等が主催する外部研修にも職員を参加させ、能力の向上を図りました。
---------------	--

評価 (Check)

業務・組織に関する指標			目標・実績	R3年度 (現状値)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	研修への参加回数		目標値		16	20	24	28	回
	説明	専門性向上等のための研修への財団職員の参加回数	実績値	20	24	27	27	57	
指標1 に対する達成度			a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値(個別設定値)以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値(個別設定値)未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載					
法人コメント(指標に対する達成度やその他の成果等について)									
新規採用研修を充実させるとともに内部研修や様々な団体が主催する外部研修に職員を積極的に参加させることにより、業務に必要な基礎知識や専門知識の習得ができ、職員のスキルアップにつながりました。令和7年に財団が設立40周年を迎えることを節目と捉え、これまでのあゆみを振り返り、現状を確認し、財団のこれからを考えるため、令和6年度から若手職員を中心にワーキンググループを立ち上げ、議論等を重ね、「新たなステイトメント」を令和7年6月に策定し、文化財団職員全員に対し今後の法人運営の方向性を示しました。またこのステイトメントの具体化に向け、引き続き各職場から推薦された第二期ワーキンググループのメンバーで議論を行い、財団を取り巻く状況や課題等についての理解を深め、職務に対する意識の醸成を図る取組を進めました。令和8年度についてもワーキンググループを継続するとともに財団内におけるガバナンスの向上や対外的な財団の認知度向上に引き続き取り組んでいきます。									

本市による評価

達成状況

区分

区分選択の理由

- A. 目標を達成した
B. ほぼ目標を達成した
C. 目標未達成のものがあがる
一定の成果があった
D. 現状を下回るものが多くあった
E. 現状を大幅に下回った

A

業務上必要な幅広い専門的知識を習得するため、積極的に外部研修に参加し、目標を達成することができたことに加え、財団の理念等の策定により職務に対する意識の醸成を図ることができたため。

改善 (Action)

実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	I. 現状のまま取組を継続 II. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 III. 状況の変化により取組を中止	I	文化芸術の専門組織として、文化芸術の質の向上と社会的価値の創出を目指し、引き続き、職員の能力向上に係る意識の醸成と積極的に研修に参加できるよう環境の整備に努め、人材育成に取り組みます。

●法人情報

(1)財務状況

収支及び財産の状況(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
正味財産増減計算書	(一般正味財産増減の部)						
	経常収益		1,980,168	2,137,125	2,215,807	2,295,039	2,168,993
	経常費用(事業費)		1,796,353	1,972,669	2,149,097	2,195,002	1,987,756
	経常費用(管理費)		122,072	127,390	111,446	127,035	129,716
	うち減価償却費		19,085	22,118	21,676	21,661	21,893
	当期経常増減額		61,743	37,067	△44,736	△26,997	51,522
	経常外収益						
	経常外費用						
	税引前当期一般正味財産増減額		61,743	37,067	△44,736	△26,997	51,522
	当期一般正味財産増減額		61,673	36,997	△44,806	△27,067	51,452
貸借対照表	(指定正味財産増減の部)						
	当期指定正味財産増減額				△22,001	△2,300	
	正味財産期末残高		497,549	534,546	467,739	438,372	489,822
	総資産		733,831	758,435	721,174	734,806	755,353
	流動資産		350,116	350,250	349,440	398,423	413,166
	固定資産		383,715	408,185	371,734	336,383	342,187
	総負債		236,282	223,889	253,435	296,434	265,533
	流動負債		236,282	223,889	253,435	296,434	265,533
	固定負債						
	正味財産		497,549	534,546	467,739	438,372	489,822
指定正味財産		31,779	31,779	9,778	7,478	7,478	
一般正味財産		465,770	502,767	457,961	430,893	482,344	
主たる勘定科目の状況(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
	経常収益	事業収益	1,436,580	1,584,117	1,737,652	1,786,579	1,685,333
	経常費用	委託費(事業費＋管理費)	556,524	662,966	789,358	802,945	760,811
	総資産	特定資産	139,091	140,557	115,966	79	97,654
	総負債	有利子負債(借入金＋社債等)					
本市の財政支出等(単位:千円)			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
補助金			431,237	407,921	376,534	425,938	413,873
負担金							
委託料			136	129	138		
指定管理料			970,176	990,820	991,872	989,544	862,623
貸付金(年度末残高)							
損失補償・債務保証付債務(年度末残高)							
出捐金(年度末状況)			30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
(市出捐率)			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
財務に関する指標			令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
流動比率(流動資産／流動負債)			148.2%	156.4%	137.9%	134.4%	155.6%
有利子負債比率(有利子負債／正味財産)							
経常収支比率(経常収益／経常費用)			103.2%	101.8%	98.0%	98.8%	102.4%
正味財産比率(正味財産／総資産)			67.8%	70.5%	64.9%	59.7%	64.8%
経常費用に占める市財政支出割合 (〔補助金＋負担金＋委託料＋指定管理料〕／経常費用)			73.1%	66.6%	60.5%	61.0%	60.3%
経常収益に占める市財政支出割合 (〔補助金＋負担金＋委託料＋指定管理料〕／経常収益)			70.8%	65.5%	61.8%	61.7%	58.9%
法人コメント					本市コメント		
現状認識			今後の取組の方向性			本市が今後法人に期待することなど	
令和7年度は、プラザソル及びアートセンターで利用料金の改定を行い、特にアートセンターにおいては新しい事業にも取り組んだことで入場料収益は対前年比121%増と事業収益の増に貢献しました。一方、長引く物価高騰の中、各施設において経常費用の削減に努めながら事業を推進し、毎年度事業収益は微増となっていました。令和7年度からミュージアム川崎シンフォニーホールについては管理組合の共益費の支払いを川崎市で行うことになったことで指定管理料が令和6年度から約129,000千円の減となったため、財団全体の事業収益が大幅に減となりました。			事業収益の確保を目指し、利用料金の改定や事業の見直し、広報の強化等各施設においてさまざまな取組を進めてきたところですが、社会状況の変化による物価高騰の影響は大きく、経常費用に対する市財政支出の割合は微減に留まっており、この傾向は続くものと考えます。 また今後予定されているミュージアム川崎シンフォニーホールやプラザソルの経年劣化等による施設改修工事の間の事業収益確保等大きな課題もありますが、引き続き経費の効率的な執行を意識しながら魅力的な事業・企画の立案・実施に努め、積極的な広報を行い、利用者・収益の確保を目指します。			本法人は、本市と共に文化芸術振興の施策を実現する協働のパートナーとして非常に大きな役割を担っています。 物価高騰等の影響があったものの、各施設での経常費用が減少し、経常収支比率は102%となり、正味財産は増加しました。 今後も引き続き、各種取組による収入確保及び事業の棚卸や執行に伴う契約方法の見直しなど、経営健全化に向けた効率的かつ効果的な運営、さらに執行体制の強化に向けた取組に期待します。	

(2)役員・職員の状況(令和8年7月1日現在)

	常勤(人)			非常勤(人)		
	合計	(うち市派遣)	(うち市OB)	合計	(うち市在職)	(うち市OB)
役員	1	0	1	8	0	0
職員	48	0	9	0	0	0

【備考】
●総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解
・理由

・今後の方向性